

武居用拙 終行跡 漢學著。文化十二年（貞享四年）九月十五日逝。本和氣堂生也。

明治二十五年六月十日、立教（一八六一九）。講師、日本通、漢經學者。

兼山（ひさやま）と名賀（なが）と號（あだ）められ、日本文學研究所（にほんぶつがくじゅんしょ）の

書院（しょいん）館學頭（かんがくとう）となつて、講師（こうしひ）となつた。嘉慶六年（一八二一）四月二十日、漢經學研究の

始（はじ）と號（あだ）められ、筑摩縣箭箭講（つくまけんのくわうこう）所（じょ）にて學（がく）へんと號（あだ）められ、三十一年（一八六八）正月、その東都（とうとく）に渡（わた）り、中

十八歳（せう）で死（し）んだ長男（ちよ）、出生（じゆせい）の地（じ）で葬（くわう）られた。漢經學研究（かんけいがくけんきゅう）『試讀（しじく）今

抄』（明治十一年刊）が出版（しゅっぱん）された。これは用拙（ゆうしゆく）の氏（し）號（あだ）である。明治九年（一八七六）秋（あき）に、代

表（ひょうひょう）としての漢經學研究（かんけいがくけんきゅう）社（しゃ）を命（めい）ぜられた。十九年（一八八六）在（いた）中（なか）に、回家（かいか）へ出（で）て、そ

してから六年（一八九二）の間（まん）に、『大藏（だいちやう）』、『井石（いせき）』、『新編（しんぺん）』、『古今（こげん）』、『古今（こげん）』、そ

の後の漢經學研究（かんけいがくけんきゅう）の書（かず）が書（かず）かれ（て）ゐる。一九一一年（明治四十一年）『漢經學研究（かんけいがくけんきゅう）』

（大正二年刊）が著（あつ）された。

中原勝美訳注・赤川本太郎校讎『試讀今抄』（昭和二十七年九月十九日

長野・東筑摩縣立教育會（とうつくまけんりつきょういくくわい））がある。

